



野尋禾の
ついのべ
その三
(2009/11)

まえがき

まえがき

パブー版”野尋禾のついのべ”も”その三”となりました。

”その一”、”その二”は、たくさんのかたに閲覧していただき、嬉しく思っています。

本コンテンツも、あなたの暇を潰すお役にたてれば幸いです。

収録作品はすべて、twitter で発表されたものですが、修正を加えたものもあります。

本ファイルに収録された作品の著作権は、野尋禾／nohironogi／佐々木秀博に帰属します。

2010/07/27

HP : http://www.geocities.jp/nohiro_nogi/

mail : nohironogi@gmail.com

Twitter : [@nohironogi](https://twitter.com/nohironogi)

本屋祭り、死神祭り。(2009/11/01 - 2009/11/10)

#twnovel

「ハロウィンは終わりです！」

首相が宣言した。

列島全土で安堵の溜息が漏れた。

家計を圧迫し続けた悪法の終焉である。

子供の訪問者には施しを与えることを義務とする。

友愛の名のもとに打ち出された経済再建策、”トリック・オア・トリート法”。

与党の命とりになっただけだった。

2009/11/01

#twnovel

あの家に帰りたい。

なだらかな丘の上に建つ、玩具みたいな家。

青空の下、真っ白な洗濯物が風に揺れる。

星空の下、暖かい灯が窓に宿る。

穏やかな笑い声の絶えない、あの家。

息がつまるこの街、この家、この家族から、いちばん遠い場所にある、あの家。

ほんとうの家族の待つ、あの家。

2009/11/01

#twnovel

ツイッターの言語選択肢が爆発的に増えた。

うちにも、読めない文字のフォロワーが現れた。

こちらもフォローした。

一文字か二文字だけの眩き。

翻訳サイトにペーストする。

が、結果が返らない。

放置して寝てしまった。

翌朝、表示されていたのは、全百四十万文字強の長編小説。

つ☆。

2009/11/01

最後の一服は断った。
「健康のために」
立会人が複雑な顔をする。
無宗教だから聖職者もない。
数年ぶりの刑の執行を台なしにする困った囚人。
それが俺。
これから、ちっぽけなカプセルで、大気圏に突入する。
極刑、流星刑。
もし生き残れたら、特別恩赦で無罪になる。
悪くないだろう？

2009/11/01

メジャーのマウンドを夢見た少年。
中学では、英語の特訓もした。
新卒の女性教師が丁寧に教えてくれた。
卒業後、彼女は米国へ留学。
再会を夢見て投げ続けた。
超高校生投手になり、メジャーへの道が開けた。
だが、あえて、日本球界を選んだ。
取材に来た女子アナに籠絡されていた。

2009/11/03

月に吠える。
月に哭く。
私の詩人の魂が悶え苦しむ。
詩人の血の命ずるままに、棲みかをぬけだした。
孤独が辛い。
街が恋しい。
港だ。
私は上陸する。
歩く。
地響きをたてて。
一步ごと、街は壊れる。
足許で逃げ惑う人々よ、聞いてください。
私の詩を。
冷たく光る、熱い炎を私は吐き出す。

2009/11/03

#twnovel

郊外へ紅葉狩りに来た。
「パパ、熊！」
幼い娘が楽しげに指差したのは、ほの暗い杉林。
たしかに、黒いものがある。
が、
「ははは、よくごらん。ゴミ袋だよ」
「なーんだ、ふほうとうきかあ」
「ははは、よく知ってるなー」
翌日、近所の住民が袋を開けてみた。
山の肉屋事件の発端である。

2009/11/03

#twnovel

私の学級が学級閉鎖になった翌日、とうとう、学校が閉鎖された。
生徒が登校しなくても、職員は登校する。
授業がなくても仕事は山積みだ。
廊下で騒ぐ声にいらいらが募る。
怒鳴りつける。
静寂が戻る。
と、職員室じゅうの視線が私に集まっている。
我に返る。
生徒は登校していないのだ。

2009/11/03

#twnovel

私は 2000 年の世界に迷いこんだ。
私のいた世界と少しだけ違う。
一見、何も変わらないようだが、ここには私の国が存在しない。
かわりに日本という国がある。
私の信じた理念も、それに殉じた革命家も、その記念日もない。
今日がその日だった。
革命家にして建国の父、ブン・イヒの日。

2009/11/03

#twnovel

物語が脳をよぎる。
歩きながら、食べながら、束の間、読みふける。
書きとめなくては、と思うのに、必ず忘れてしまう。
濁った沼の底、泥から生まれて、水面に上り、割れてしまう泡。
次の泡は同じ泡ではない。
忘れた物語、忘れられる物語。
決して思い出せないから、自分で書く。

2009/11/03

#twnovel

祖父はファイヤア・ファイタアだった。
”本”を焼き捨てる仕事だ。
地下書店を焼き払った手柄話は、何百回も聞いた。
そんな彼の宝物は、こっそり持ち帰った”本”だった。
初めて見た時は驚いた。
百四十文字以上の文章がそこにあった。
信じなくてもいい。
でも、それが”本”なんだ。

2009/11/04 (Wed)

#twnovel

彼は本屋で生まれた。
本屋で授乳され、おむつを替えられ、這い、立ち、走り、叱られ、褒められ、就学
年齢に達した。
が、入学式しか出なかった。
店内の本を読破していた彼には馬鹿らしかった。
それきり、外に出ないまま、結婚し、子をなし、天寿を全うした。
昔は、そんな本屋がいた。

2009/11/05 (Thu)

#twnovel

立ち読み師の息子に生まれた。
だから、立ち読み師になった。
親父に仕込まれたわけじゃない。
それどころか、ろくに口もきかない。
ただ、隣に立ってただけだ。

親父の腰にも届かない頃から。
そうして、いつしか二代目と呼ばれるようになっていた。
親父かい？
ほら、座り読みしてるよ。

2009/11/04 (Wed)

#twnovel

サクソプレイヤーがステージに帰ってきた。
妻の死後、三年の空白を経て。
歌姫と呼ばれた妻とは、ついに共演することがなかった。
サクソは人間の声に最も近い楽器。
共存することはできない、と彼はよく語った。
闇に、彼と楽器が浮かび上がる。
聴衆はたしかに聴いた。
歌姫の声を。

2009/11/05 (Thu)

#twnovel

彼等にとって大気は、魚にとっての水。
大気圏を泳ぎ、成層圏に浮上する。
体組織があまりにも希薄、かつ生物としては大きすぎるため、近年まで発見され
なかった。
その生態は未だ謎。
各個体に共通する行動として、流星に対しての行動停止が報告されている。
まるで願い事をするように。

2009/11/05 (Thu)

#twnovel

”シニガミ”と呼ばれた殺し屋がいた。
他に類を見ない手法は、しかし、いたってシンプルだった。
にもかかわらず、模倣者はいなかった。
無理もない。
それを実行するには、文字通り目標に肉薄する必要がある。
ヒット・アンド・アウェイの原則から言えば無謀だ。
頸動脈を噛み切るのは。

2009/11/06 (Fri)

#twnovel

ゲカト人は爬虫類型知的生命体。
宇宙に進出したヒトとは、最高のパートナーシップを保っている。
ヒトが深宇宙に流通網を構築できたのも、ゲカト人の惜しみない技術供与のおかげだ。

知的活動に大量の糖分を要するゲカト人は、ヒトのパティシエなしには生活できなくなっていた。

2009/11/06 (Fri)

#twnovel

危ないところだった。
最初のついのべ本出版記念座談会。
一時間限定の一時間が、やっと終わった。
なんだか楽しそうなので、参加しそうになった。
まだその本を見てもいないというのに。
その衝動を堪えるのに悶絶した。
しかし、必死で堪えた。
うっかり、創作の秘密を明かさないうちに。

2009/11/06 (Fri)

#twnovel

毎度おなじみのあれがやってきた。
いつものように、一トントラックでゆっくりと住宅街を流している。
「御家庭内で御不要の古新聞古雑誌等ございましたら、お気軽に……」
玄関の前で手を振る主婦を認めて、停車。
業者は、古新聞の束を荷台に載せて、死神を引き渡す。
主婦の顔が輝く。

2009/11/06 (Fri)

#twnovel

そう、俺が死神。
大鎌を持ってないとか、
ツッコむな。あんなもの持ち歩いてたら、職務質問されるだろ。
これでも、昔はちやほやされたもんさ。
グリムとか圓朝とかのおかげでな。
でも、近頃は駄目だね。
寿命が伸びただろ。
蠟燭の時代は終わったよ。

あの病人の枕元、LED が光ってる。

2009/11/07 (Sat)

#twnovel

以下同文。

別名、盗作。

2009/11/07 (Sat)

#twnovel

まあ、商売が商売だ。

恨まれるのは慣れっこさ。

弁解する気もない。

ただ、こうして口をきくのも何かの縁。

ひとつ、教えてやろうか。

すべてが俺達の仕事じゃないんだ。

もっともだろう？

毎日、世界中で何人が死んでると思う？

俺達が連れてゆくのは、VIPだけさ。

あんたみたいな。

2009/11/08 (Sun)

#twnovel

見えない雨が、大地を濡らす。

すでに荒れはて、飽和した大地は、見えない水に蹂躪される。

見えない亀裂が、また増える。

見えるものしか見えないヒトは、気づく間もなく、見えない亀裂にはまってしま

。

あとはひたすら墜ちてゆく。

見えない闇の底なき底へ。

けれど、誰も気づかない。

2009/11/08 (Sun)

#twnovel

女の料理はレストランで食べるより旨かった。

香辛料が決め手らしい。

神社に自生する百合に似た植物の根から抽出するのだという。

その効果か、食欲も精力も増進した。
自然、肥満した。
慢性的に眠いのも、そのせいなのか。
本能が警告を発する。
だが、もう彼女なしには生きられない。

2009/11/08 (Sun)

#twnovel

忍び寄る演歌。
むせび泣くブルース.....
.展望デッキでは、様々な民族音楽が私の身体を通過する。
悲しい唄ばかり。
それが、しつこく感じない。
どれも私の唄のように感じる。
ここへ辿りつく人は皆、そうらしい。
暗黒を見つめ、悲しみに向き合う場所。
ブラックホール観測ステーション。

2009/11/08 (Sun)

#twnovel

美しいひとよ、僕は誓う。
変わらぬ愛を捧げることを。
はちきれんばかりに輝く肌が乾いた砂漠のようになり、風紋の如き皺が刻まれよ
うと、健やかな肢体が歪みねじ曲がろうと、鈴を転がす声音が木枯らしの呻き声に変
わろうとも。
「ごめんね。あたり、りす組のけんちゃんがしゅきななの」

2009/11/08 (Sun)

#twnovel

電車はたやすく檻に変わる。
駅以外の場所で停車すれば、乗客は軟禁状態。
自由を奪われる。
自由になる術は心得ている。
扉を開ける非常用コックは目に入るし、窓を開ければ、脱出できる。
だが、それをせず、黙って待つ。
運行の復旧を。
いや、何か違うものを。
例えば、革命のような。

2009/11/09 (Mon)

#twnovel

いらっしやいませ。
展示中の新車にご関心が。
ありがとうございます。
ご存知でしょうが、この新車、環境問題に配慮した研究から開発しました化石燃料
不使用無排気機関を、世界で初めて搭載しました。
いえ、電気では走りません。
燃焼していただくのは、あなたの魂です。
いかがですか？

2009/11/10(Tue)

#twnovel

わが家に生活支援ロボットが届いた。
予想どおり、違和感を覚えた。
情報として知ってはいたが、ロボットという響きにはほど遠い。
なにしろ小さい。
それでも家中を把握して、こまごまと働くのはたいしたものだ。
おかげで家事の捗ること。
常に最適の助言で、我々をうまく使ってくれる。

2009/11/10(Tue)

#twnovel

悪いこた言わない。
田舎へ帰りな。
お嬢ちゃん、都会は地図みたいに薄っぺらだと思ってるだろう。
それなら怖かない。
でも、実際は、山あり谷あり、森も沼もある。
視界ゼロの危険地帯さ。
そこを、獣どもがうろついでる。
姿を隠して、弱い獲物を狙ってる。
ちょうど、今の俺みたいにさ。

2009/11/10(Tue)

本の夢。(2009/11/11 - 2009/11/20)

#twnovel

わかった。
おにいさん、あいつに似てる。
ほら、あの指名手配犯。
あいつの整形前の顔に似てる。
気い悪くしないでくれよ。
一杯、奢るから。
だけど、あいつも運がないねえ。
警官に玩具の拳銃向けて、逆に撃たれたんだろ。
自殺行為だ。
あれ、おにいさん、泣いて、いや、笑ってんのかい？

2009/11/11(Wed)

#twnovel

もう都へは帰れまい、と詩人は思った。
御政道を批判した身には、左遷ですんだのが幸い。
辺境の地だが、酒だけはある。
夢のような歌でも詠んで、余生を送ることとしよう……
後年、歌に詠まれた理想郷を求め、幾多の詩人が旅に出た。
そして、誰もが、この地を素通りしていったという。

2009/11/12(Thu)

#twnovel

年末。
また埋立地を取り囲む高い壁が立つ。
人々が流れこみ、街が生まれる。
衣食住と仕事が待つ街。
報酬が出て、欲しいものが買える。
労働者の楽園。
しかし、報酬は壁の中でのみ流通する地域通貨。
春になり、街も壁も撤去されたら紙屑に変わる。
臨時労働者特区。
別名、ハケンムラ。

2009/11/12(Thu)

#twnovel

本の夢をよく見る。
本を読む夢ではない。
私が本になっている。
私は誰かに開かれ、読まれる。
自分に書かれた内容を私は知らない。
読者とともに読み進み、葉を挟まれ閉じられる。
本が眠りにつき、私が目覚める。
本はもう佳境。
読者は夢中だ。
だが、読了後の本／私の運命も気になる。

2009/11/12 (Thu)

#twnovel

三人だから生き残った。
遭難した漁船の生存者が語る。
よくわかる。
一人では孤独が、二人では葛藤が、希望を殺す。
もう一人が絶望を緩和する。
だが、消えはしない。
私、妻、私の愛人。
三個の魂の一個の生物。
わかちがたく結ばれた三人の罪びと。
破綻への恐怖が三人を生かしている。

2009/11/14 (Sat)

#twnovel

年賀状配達採用者への事前説明会。
「最後に、もうひとつ。郵便受けに長い時間、手を入れるな。謎の生命体に指を食われることがある。こんなふうにな」
講師が右手の白手袋を歯で抜き取る。
甲を見せた手には指がない。
会場に動揺。
講師はにやりと笑い、ゆっくりと指を伸ばしていった。

2009/11/14 (Sat)

#twnovel

その写真をいつも持ち歩いていた。
色褪せた写真には、大切なひとがいた。
遠い日に死別した夫が。
とりかえしてやろうか、と耳元で悪魔が囁く。
できるものなら、と思わず答える。
一瞬で、過去がすり変わる。
私たちは幸せな老夫婦になる。
でも、なぜか、私は写真を失ったことが悲しい。

2009/11/15 (Sun)

#twnovel

会話の内容は覚えていません。
ただ、彼の声だけは今も鮮明に思い出せます。
「いいな、俺には何もない」
そのとき、思いました。
何もないという、このひとの何かになりたい。
祈るように、そう思いました。
彼が逃亡を続けていることは知っています。
それでも、気持ちは変わりません。

2009/11/15 (Sun)

#twnovel

黒い蝶をよく見る。
冬へ落ちこんでゆく季節。
あるかなきかの風にも流される瀕死の蝶。
目で追う癖がつき、気がつくとも足も追っている。
通りから路地。
日向から日陰。
灯の輪から暗がり。
そして、闇の国に至る。
漆黒の長い腕が私を抱きとる。
黒い気体が口から漏れ、蝶に変じて飛び去る。

2009/11/15 (Sun)

#twnovel

水だけじゃない。

他にも色々あるぞ。
生命活動に必要なものは、なんでも。
好きなだけわけてやる。
だから、早くおまえらの衛星を開発しろ。
そして、この監獄ユニットを掘り出せ。
このふざけた重力枷を外せ。
俺を解放しろ。
俺の宇宙に帰せ。
銀河連邦に流刑にされた第一級海賊犯の俺を。

2009/11/15 (Sun)

#twnovel

みな、海から来て海へ帰る。
幼い僕はそんなふう感じていた。
どこからか訪れて帰ってゆく人々。
帰省してくる叔父一家、祖父の戦友という老人。
山と海しかない町だ。
開けているのは空か海。
そう考えたのも無理はない。
でも、そんなことは忘れていた。
防波堤の上を歩く君を見るまで。

2009/11/16 (Mon)

#twnovel

ついに、うちにもあの女がやってきた。
必殺仕分け人部隊。
無駄な政府事業を絶賛殲滅中。
なかでも例の女性議員は舌鋒するどく、ボスは太刀打ちできない。
やれ、存在理由が理解不能。
警察や自衛隊の仕事。
実績が不明。
もはや壊滅寸前だ。
凄い科学で平和を守る、たった五人の超戦隊は。

2009/11/17 (Tue)

#twnovel

学校で戦争のことを習った。

疑問が生まれる。
戦争は祖父が子供の頃。
でも、顔に傷のある祖父の友人は”戦友”だという。
たしかに、往年のつわものの風格がある。
どこで戦ったのだろう。
防波堤の上で、そのことを話す。
海を見たまま、君は言う。
「戦争が終わったことなんてないのよ」

2009/11/17 (Tue)

#twnovel

今も何かの拍子に蘇る、彼女の”枯葉”。
秋になると、無意識に口ずさんでいた。
ただし、”枯葉よ”のフレーズだけ。
延々、繰り返した。
枯葉は永遠に舞い落ちる。
彼女が落とした枯葉を、僕はシャベルで片付ける。
歌われなかった歌詞のように。
いつまでも。
彼女のいなくなった世界で。

2009/11/17 (Tue)

#twnovel

思わず突き飛ばした。
あいつは教室の後ろに片付けた机にぶつかり、凄い音をたてた。
僕は駆け出していた。
気がつくやうに防波堤。
「爺ちゃんを馬鹿にしたんだ」
なぜか君に言い訳をする。
「あの子が？」
君の視線の先に、あいつがいた。
僕の鞆を差し出して、
「何してんだよ？ ひとりで」

2009/11/18 (Wed)

#twnovel

時雨が冬木立を濡らす。
鳥獣草木、息をひそめている。

そして、男ふたり。
もう半刻も身じろぎもしない。
鏡のように同じ構え。
下段に落とした切っ先から、冷たい雫が落ちる。
同門の二人は知っている。
仕掛ければ負ける。
後の先をとったほうが生き残る。
兄弟のどちらかが、道場へ帰る。

2009/11/18 (Wed)

#twnovel

ジャージの青年に突き飛ばされた。
尻餅をつくまでの長い一瞬。
いつもの後悔が襲ってきた。
父の死に目にあえなかったこと。
迷っていた恋人に待ちぼうけをくわせたこと。
走っていれば、間に合ったのか。
ぶざまな中年男に、青年は爽やかに謝り、
「じゃ、俺、走らなきゃいけないんで」

2009/11/19 (Thu)

#twnovel

男は黙り続けた。
長い逃亡の果ての逮捕だった。
尋問すべきことは山ほどあった。
刑事たちは焦れた。
神経の糸が切れかけたとき、ようやく、そのときが来た。
「無言の行がすんだ。私は物語師となった」
啞然とする刑事たちに、男は語り始めた。
死ぬほど面白い物語を。
彼らが死ぬまで。

2009/11/19 (Thu)

#twnovel

結局、みんな他人。
今、どこにいようと、何をしようと、何を食べようと、私には関係ない。
家族とか友達が相手なら違うかもしれない。
でも、知ってるのは、アイコンと文体だけ。

百四十文字の独り言。読まれなくてもいいし、読めなくても.....
メンテナンスって、まだ終わらないのかな。

2009/11/20 (Fri)

森、金狼、そして、人を殺して逃げました祭り。(2009/11/22 - 2009/11/29)

#twnovel

鍵盤に指を下ろす。

初めて作ったこの曲を貴女に捧げる。

家庭教師の貴女は、純粹培養の英才教育を受けてきた僕に外の世界を教えてくれた

。

闇から救いだしてくれた。

英詩に託して気持ちを伝えたい。

でも、弾き終わると貴女は言った。

「素敵ね。レット・イット・ビー。いつ覚えたの？」

2009/11/22/ (Sat)

#twnovel

今宵の先生は、いつになく饒舌だ。

酒精がいいぐあいに働いているようだ。

「どういふものか、酔うと読書量が増すんだ。一晩で十冊くらい読める。それで、内容もちゃあんと覚えてる。ところがだ。作者と題名は全く記憶してないんだ」

豪快に笑う。

先生には盗作疑惑がかけられている。

2009/11/22 (Sat)

#twnovel

金狼は傷ついていた。

常に人間に狙われ、いつしか群れを離れた。

優れた機知で生き延びてきたが、もう若くない。

今、巨木のうろに潜み、死を待っている。

と、そこへ雌狼が現れた。

湯気の立つ生肉を吐き出した。

母が子にするように。

金狼はこの日を忘れまいと誓った。

金狼、感謝の日。

2009/11/23 (Mon)

#twnovel

ゆっくりと時が過ぎた。
都市が砂漠に沈んだ。

2009/11/24 (Tue)

#twnovel

寝過ごした。
駅へ急ぐ。
改札直前、財布を忘れたのに気づく。
駅とアパートを走って往復。
電車に乗ると緊急停車。
誰かが線路に立ち入ったとか。
数十分後に復旧。
やっと職場の最寄り駅。
全力疾走。と、前方、まさに俺の職場でガス爆発。
職場と職を失った。
俺は運がいい。
まだ生きてる。

2009/11/24 (Tue)

#twnovel

長命の種族がいる。
仮に貴族と呼ぶ。
つねに退屈しのぎを欲した。
あるとき、二人の貴族が賭けをした。
ある男の子が、幸福になるか不幸になるか。
根気よく見守った。
彼の死まで。
平凡な一生だった。
いつも、家族のためにチャンスを逃した。
二人は判定に困った。
別の遊びを探し始めた。

2009/11/24 (Tue)

#twnovel

その男の子は、試しの森で見つけられた。
落ち葉に埋もれて眠っていた。
ひとりで。

村人は、男の子を畏れ、敬った。
やがて、月日が流れ、男の子は少年になった。
その年、ひどい日照りが続き、そのまま秋になり、冬になった。
その時が来た。
少年はひとり、森へ入った。
火種を忍ばせて。

2009/11/26 (Thu)

#twnovel

ひとりで森に入っではいけない。
森に試されるから。
そう言い聞かされて育った。
いくつになっても森は怖い。
怖いが、森の恵みなしには生きられない。
あるとき、仲間と茸採りに入った。
帰り道で、弁当箱を置き忘れたのに気づいた。
つい、森へ戻った。
あれから、もう何年になるのか.....

2009/11/26 (Thu)

#twnovel

ひとりで森へ入ると、森は人を試す。
人の心のいちばん弱いところを責める。
置き忘れた弁当箱を取りに戻った男がいた。
それきり、十年以上、森を出られなかった。
帰ろうとすると、声がしたという。
本当に帰りたいのか、と問う声が。
そうだ、と答えるのに十年以上を要したのだという。

2009/11/26 (Thu)

#twnovel

寝入りばなに起こされた。
隣家のドラ息子が帰宅したのだ。
窓から顔を出さなくてもわかる。
思慮に欠ける父親が買い与えた新車の騒音で。
私の若い頃、昭和の時代の暴走族特有のエンジン音にクラクション。
電気自動車の擬似走行音には規制が必要だ。
私はもう、殺意を抑える自信がない。

2009/11/26 (Thu)

#twnovel

もうかんべんしてくれ。
現実にはハーレクイン・ロマンスじゃない。
違うタクシーに飛び乗ったり、ないものねだりしたり。
どこまで俺を苦しめる。
一緒にいると辛くなるだけだ。
いっそ殺してしまいたい。
なのに離れられない。
互いの棘で血を流しながら、何かを掴もうとしてる。
二人で。

2009/11/28 (Sat)

#twnovel

寒いはずだ。
水溜まりに氷が張ってる。
おや、珍しい。
見ず溜まりにも氷が。
水溜まりと見ず溜まり、そっくりだが、氷も見分けがつかない。
うっかり踏んだりしたらことだぞ。
なにしろ、見ず溜まりには底がない。
でも、こんな朝には、小学生がいちいち氷を割ながら登校するんだよな。

2009/11/28 (Sat)

#twnovel

森は知っていた。
とうにつとめが終わっていることを。
森林型移動要塞バーナム。
そう名づけられ、名づけたものたちのために働いた。
が、彼らは滅び去った。
恵み深い森として、他の生物と生きるようになって幾星霜。
そのときが来た。
森で生まれた少年が、火を放つ。
新しい世のために。

2009/11/28 (Sat)

#twnovel

皮肉なものだ。

地球暦のこの時期に合わせて見物に来たものの、壮大なオブジェは肉眼では楽しめない。

不粋な科学のフィルターごしでなくては、壮麗なオブジェもただの暗闇。

しかし、賤しい機械化奴隷どもは、自分の目で見て、感動すら覚えているらしい。

通称クリスマスツリー星雲に。

2009/11/28 (Sat)

#twnovel

幼い日のことだ。

あるいは夢だったかもしれない。

両親と雑踏を歩いていた。

信号で立ち止まったとき、母親が僕の首に迷子札をかけた。

「これで安心ね」

やがて雑踏が動き出した。

でも、僕は動けない。

迷子札が重くて。

両親はどんどん遠くなり、人込みに消えた。

そのあとの記憶がない。

2009/11/28 (Sat)

#twnovel

人を殺して逃げました。

.....この書き出しの投稿が急増している。

夥しい発言者のなかに、実際に犯行を自白している者が紛れこんでいるに違いない

。

そいつは、犯行を知らしめたいのだ。

だからサインを残しているはずだ。

ん、これか。

”#iconfess 人を殺して逃げました。”

2009/11/29 (Sun)

#twnovel

人を殺して逃げました。

「殺したのは、この写真の女性ですか？」

はい、妻です。

「首を絞めた？」

はい。

「なぜ、そんなことを？」

信じないでしょうが、妻の暴力に耐えられなかったんです。

「なるほど……所で、奥さん、無事ですよ。迎えにみえてます。許す、とおっしゃってましたが」

2009/11/29 (Sun)

#twnovel

人を殺して逃げました。

仕方なかったんです。

女ひとり、乳飲み子を抱えて生き延びるには。

でも、怖くてたまらないんです。

さあ、あたしを逮捕してください。

でもこの子に罪はありません。

どうか……

「奥さん、あんたが殺したのは人じゃない。非徒だ。主義者だよ。さあ、行きなさい」

2009/11/29 (Sun)

#twnovel

人を殺して逃げました。

恋人に別れも告げないまま、高飛びした先が内戦中。

外人部隊に身を投じ、必死で生き延びました。

そのうち風の噂に、私が殺した男が生きていて、私の恋人と結婚したことを知りました。

私はハメられたのです。

私は復讐を誓いました。

が、この続きはまた別の話。

2009/11/29 (Sun)